

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		福祉課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_5. 支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		虐待や支援を必要とする子ども、DV被害の母親等への対応として、虐待・防止ネットワーク等の体制の充実を図ります。また、人権教育や講座等を通して、子どもの人権に対する意識を高める取組を推進します。							
事業名称		虐待・防止ネットワークの構築強化							
事業概要		関係各課、機関との連携を強化し、虐待・防止ネットワーク会議を開催します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	広報誌等による相談窓口の情報提供		回	2	2	2	2	2	2
	虐待・暴力防止ネットワーク会議での情報連携		回	4	4	4	4	4	4
	相談件数 ※参考資料（実績）		件	334	363 (73)	381 (67)	254 (50)	231 (53)	
令和5年度	事業の目標と取組内容		年々相談件数が増加していることから、相談窓口としての周知ができたものと考えてるが、引き続き相談体制の充実、相談員の質の向上、関係機関との連携強化等を継続し、情報提供も行っていく。						
	取組実績		女性相談員による相談業務（毎週月・火・金曜日）を実施し、11月の「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間に合わせて市のホームページや広報誌等による相談窓口の情報提供を実施した。また、虐待・暴力防止ネットワーク会議では担当者会議、実務者会議、代表者会議を実施し、関係機関との情報連携を行った。						
	目標達成に向けた今後の課題		相談件数は減少したものの相談者数が昨年度から増加している。女性の抱える問題は多様化・複雑化しており、様々な困難な問題に適切に対応していくため、引き続き相談体制の充実、相談員の質の向上（県等実施の研修参加）、関係機関との連携強化等を継続する必要がある。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	広報誌等による情報提供や虐待・暴力防止ネットワーク会議を行った。今年度も引き続き庁内及び関係機関と緊密な連携を図り、窓口の周知及び相談への適切な対応ができていると評価できるため。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		相談件数は減少しているものの、課題や相談内容は多様化・複雑化している。様々な困難な問題に適切に対応していくため、引き続き相談体制の充実、相談員の質の向上を図る。また、相談者の状況に応じた最適な支援を行えるよう、継続して関係機関との連携を強化していく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_2. 親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		快適で安全な妊娠出産のための妊娠期・育児期の対処方法の検討など、若年の妊婦・母親や育児不安の強い母親への支援の充実を図ります。							
事業名称		養育支援訪問事業							
事業概要		子育てに対して不安や孤立感を抱える家庭や、様々な原因で養育に支援が必要な家庭に対して、保健師等が訪問し、養育に関する具体的な指導・助言を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	指導・助言件数		人	77	80 115	80 71	80 84	80 75	80
令和5年度	事業の目標と取組内容		福祉援護課、子ども課、子育て包括支援センター等関係機関と連携を図り、支援の優先度が高い者、関係機関との役割分担等を調整して対象者を選定して、今後も取り組んでいく。						
	取組実績		養育支援を必要としたケースに関しては、様々な課題を抱えているケースが多い。保健師等の訪問だけでの対応は難しく、必要時には関係機関へ繋ぎ、連携を取りながら、支援を行った。						
	目標達成に向けた今後の課題		相談対応や訪問を通して、ケースの潜在化する課題の早期発見、その後の支援体制を整えるためにも、関係機関との情報共有や支援会議を行う必要がある。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	養育支援を必要とするケースについては、訪問や相談対応を行う中で、早期から関係機関とともに関わりを持っていると判断した。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		支援の必要なケースに関しては、タイムリーに対応できるように、こども家庭センターと情報共有を図り、関係機関と役割分担を行いながら、支援体制を整えていく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		3. 喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_2. 親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		不妊治療、妊娠期での知識等の情報発信の充実や経済的負担の軽減を図ります。							
事業名称		妊婦健康診査等費用助成							
事業概要		妊婦が健康に妊娠期を過ごし、安全な出産ができるよう、また、出生した子供が健康に育つよう支援するため、母子保健法第13条の規定に基づき、妊婦健康診査等に要する費用を助成を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	助成件数		人	530	550 483	545 460	540 419	535 374	530
令和5年度	事業の目標と取組内容		妊婦が健康に妊娠期を過ごし、安全な出産ができるよう、また、出生した子どもが健康に育つよう支援するため、妊婦健診を既定の時期・回数で受診し、妊娠中の健康管理が自らできるよう、妊婦訪問等の保健指導を実施していく。						
	取組実績		R5年度の妊婦健診受診者数374人、妊婦健診助成数は延べ2,983件、妊婦訪問は延べ146件						
	目標達成に向けた今後の課題		妊婦健診の助成については、妊娠届出が遅くなると適切な時期に適切な検査を受けられず、安心安全な妊娠・出産ができなくなるため、適切な時期での届出を促す必要がある。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	妊娠届け出の申請があった方には、妊婦健診の助成が受けられる受診券を適切に発行できているが、出生数が減少しており、助成件数の実人員も減少傾向となっている。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		妊娠届出の適切な時期での申請について、周知啓発を医療機関の協力を得ながら実施する。妊娠届出時や妊婦訪問、伴走型相談事業等で、妊娠経過や妊婦健診受診結果の状況を踏まえた、保健指導や子育て支援サービス等についての情報提供を行っていく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		3. 喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_2. 親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		不妊治療、妊娠期での知識等の情報発信の充実や経済的負担の軽減を図ります。							
事業名称		不妊治療費助成事業							
事業概要		不妊治療を受ける夫婦の経済的な負担軽減を図るため、保険適用となる不妊治療費の一部の助成を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	一般不妊治療の治療者数		人	15	15 9	15 10	18 -	18 -	20 -
	特定不妊治療の治療者数		人	25	25 23	25 24	28 -	28 -	30 -
	不妊治療助成申請者数		人	40			30 26	30 31	30
令和5年度	事業の目標と取組内容		不妊治療を受ける夫婦の経済的な負担軽減を図るため、令和4年度から保険適用となった不妊治療費について、一組につき年度上限5万円を助成する。						
	取組実績		令和5年度の助成申請者31名のうち、15名が妊娠届を提出し、そのうちの9名が出生届提出済、6名が妊娠中（令和6年4月19日現在）である。						
	目標達成に向けた今後の課題		令和5年度の助成申請者は目標値を上回った。今後不妊治療を受ける夫婦の経済的な負担軽減を図るため、助成制度についての周知継続が必要である。						
評価	A		評価の要点 (成果及び反省)	不妊治療を受ける夫婦の経済的な負担軽減を図ることができた。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		現在の本事業は保険適用後の一部負担金に対し少額であっても助成するものであり、保険適用に加え経済的な負担軽減につながるため、不妊治療にさらに取り組みやすくすることで少しでも少子化に歯止めをかけることを目標とし、ホームページ等での周知を継続していく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_2. 親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		小児救急地域医師研修事業							
事業概要		医師研修及び適正受診への住民啓発による小児医療の充実を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	小児医療体制の満足度		%	36.7	37.0 33.7	38.0 36.3	39.0 28.0	40.0 28.9	41.0
令和5年度	事業の目標と取組内容		地域医師会と連携し、小児救急地域医師研修会を実施予定。医師だけでなく看護職や養護教諭その他の関係職種も一緒になって、学習を深め、緊急時の対応などの相談機能を充実させていく。						
	取組実績		鹿本医師会への委託事業により小児救急地域医師研修会を実施した。また、小児医療専門書籍を医療機関へ配付することによって小児医療体制の充実を図った。						
	目標達成に向けた今後の課題		地域医師会と連携し、小児医療体制の充実を図る。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	地域医師会と連携し、小児医療に関する研修会の開催および専門書籍の配布を行い、小児医療体制の充実を図るよう努めた。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		地域医師会と連携し、小児医療体制の充実が図れるよう取り組んでいく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_2. 親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		在宅当番・救急医療情報提供実施事業							
事業概要		休日、救急医療体制整備及び情報提供による小児医療・小児休日診療の充実を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	小児医療体制の満足度		%	36.7	37.0 33.7	38.0 36.3	39.0 28.0	40.0 28.9	41.0
令和5年度	事業の目標と取組内容		地域医師会と連携し、小児医療体制の充実を図っていく。						
	取組実績		在宅休日当番医による輪番制当番診療を行い、休日における初期救急患者の診療体制を確保した。（診療日数73日、実施医療機関のべ158回）						
	目標達成に向けた今後の課題		地域医師会と連携し、小児医療体制の充実を図る。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	在宅休日当番医による輪番制当番診療を行い、休日における初期救急患者の診療体制を確保した。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		地域医師会と連携し、小児医療体制の充実を図る。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_2. 親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		病院群輪番制病院運営事業							
事業概要		夜間、救急医療体制整備及び情報提供による小児医療・小児夜間、救急診療の充実を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	小児医療体制の満足度		%	36.7	37.0 33.7	38.0 36.3	39.0 28.0	40.0 28.9	41.0
令和5年度	事業の目標と取組内容		鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院と連携し、小児医療体制の充実を図る。						
	取組実績		鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院による輪番制当番診療を行い、休日・夜間における重症救急患者の診療体制を確保した。（診療日数366日、実施医療機関のべ1,756回）						
	目標達成に向けた今後の課題		鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院と連携し、小児医療体制の充実を図る。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院による輪番制当番診療を行い、休日・夜間における重症救急患者の診療体制を確保した。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院と連携し、小児医療体制の充実を図る。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_2. 親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		医師修学資金貸与事業							
事業概要		市民医療センター医師（小児科含む）を確立するため、その就学に必要な資金を貸与します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	医師の新規就労者		人	0	0	0	2	0	0
					0	0	0	0	
令和5年度	事業の目標と取組内容		広く周知活動を実施し、人材確保に努めていく。						
	取組実績		被貸与者の新規就労については、実績はないが、被貸与者のうち2名が小児科医を希望しており、早ければ令和6年度に赴任予定である。						
	目標達成に向けた今後の課題		全国の大学医学部等へ募集をかけると同時に広報・ホームページ等を活用して広く情報提供を行い、人材確保に努める。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	令和4年度の目標である医師の新規就労者2名については、令和5年度も達成できなかった。しかし、令和6年度以降の赴任が期待される。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		広く周知活動を実施し、人材確保に努めていく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		保育ニーズに即した幼児教育・保育サービスを提供するため、教育・保育施設及び地域子ども・子育て支援事業の量の確保、施設の充実を図ります。また、幼稚園教諭や保育士などの人材を確保するとともに、主体的な研修参加を促進し、幼児教育・保育の質の向上と内容の充実を図ります。							
事業名称		量の見込み及び確保方策							
事業概要		量の見込みに対して、現在の教育・保育施設での受け入れが可能であるため、需要に応じた利用定員を設定することで対応します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	待機児童数 〇		人	〇	〇	〇	〇	〇	〇
令和5年度	事業の目標と取組内容	予備保育士確保促進事業を実施し、年度途中の保育ニーズに応えられるよう育士確保に努め、待機児童数〇を目指す。							
	取組実績	私立保育園3園が予備保育士5人を確保し、年度途中の保育ニーズに対応し待機児童はなかったが、特定園希望のケースに対応できない（潜在待機児童）ケースもあった。							
	目標達成に向けた今後の課題	年度途中の申し込み全てに対応できるかが今後の課題である。							
評価	A	評価の要点 (成果及び反省)	待機児童は〇であるため。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	私立園の利用定員適正化を図るとともに、公立園においては受け入れ体制を強化する。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		幼稚園・保育園・子育て支援関連施設によるネットワーク会議を継続して開催するとともに、研修体制の構築や小学校とのきめ細かな連携を図り、全ての子どもが共に成長できるように一人ひとりの発達に寄り添うインクルーシブ保育に取り組みます。							
事業名称		教育・保育の質の向上							
事業概要		スクラム会議委員で研修内容を検討し、山鹿市内保育園等職員研修会を開催し、職員全体の資質向上を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	研修会の開催回数	回		1	3	3	3	3	
				0	0	2	2		
	研修会参加者数（延べ）	人		200	500	500	500	500	
				0	0	264	265		
令和5年度	事業の目標と取組内容	新型コロナウイルス感染状況を見ながら、まずは1回でも対面式（またはオンライン）研修会の開催を目指して立案する。 コロナ禍でもあり、県内在住の講師に講演を依頼する。							
	取組実績	昨年に続き、集合型の研修会を2回実施。 1）絵本セラピー（絵や言葉から心を読み取る力をつける） 2）アンガーマネジメント（上手に怒りをコントロールする力を身につける）							
	目標達成に向けた今後の課題	要望の多かった実技研修やジャンル別の研修も計画し、資質向上のための意欲的な参加を目指す。							
評価	B	評価の要点 (成果及び反省)	参加者の感想から研修の内容等については概ね良好。今後は職員がどのような研修を望んでいるか、開催の時期などを検討していきたい。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	現場からの意見要望を聞き、研修のあり方や内容を精査し研修計画を立てる。 開催回数の目標も達成できるようにする。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		幼稚園・保育園・子育て支援関連施設によるネットワーク会議を継続して開催するとともに、研修体制の構築や小学校とのきめ細かな連携を図り、全ての子どもが共に成長できるように一人ひとりの発達に寄り添うインクルーシブ保育に取り組みます。							
事業名称		インクルーシブ保育							
事業概要		公私立保育園・認定こども園・幼稚園インクルーシブ保育コーディネーター会議を開催。特別支援員や療育相談員を交えて会議を行い、生活しやすい環境づくり、支援の在り方を学びあい、全ての子どもが共に成長できるよう小・中学校と連携を図り繋いでいきます。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	コーディネータ会議参加率	%		95	95	95	95	95	
				84	75	74	74		
	コーディネーター会議参加園数	園		19	20	20	21	21	
19				14	14	14			
令和5年度	事業の目標と取組内容	自主研究会発足1年目ということで、これまでコーディネーター会議を牽引してきたインクルーシブ保育推進員を中心に計画や運営を進めてきたが、さらにスキルを高めるために、コーディネーターの中で運営委員を決めて、役割を分担しながら進めていくようにする。また、これまでと同様に療育相談員や心理士等の的確な助言・指導等の協力を得ながら、個々に応じた要支園児への柔軟な保育、保護者支援、保育士等の支え合いにつなげていけるよう、更なるコーディネーターの養成を目指す。							
	取組実績	会議には特別支援員・療育相談員・心理士も参加し、支援のあり方について研鑽し合った。また、公立園のみではあるが、「公開保育」を行い、お互いの学び合いの場としてスキルの向上につなげた。							
	目標達成に向けた今後の課題	各園のコーディネーターを中心に各園で、「だれ一人とりこぼさない保育」の」実践に取り組んでいく。							
評価	B	評価の要点 (成果及び反省)	公開保育や会議をとおして具体的な支援のあり方や、コーディネーターとしての役割を学ぶことができた。 アンケート調査の結果も良好で、次年度への取組みにつながるものだった。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	関係機関との連携をさらに深め、各園のコーディネーターを中心に、一人ひとりの発達に寄り添うインクルーシブ保育の実践に取り組む。 コーディネーターとしての役割が発揮できるよう、その育成を目指す。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		子育て支援の地域拠点として、地域子育て支援センター5か所において、乳幼児から若者（概ね18歳）を対象に、関係機関と連携を図りながら、子育て支援に取り組みます。							
事業名称		地域子育て支援拠点事業							
事業概要		乳幼児及び、その保護者が相互の交流を行う場の提供をし、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	子育て家庭への訪問率		%		80	83	86	88	90
					77	56	69	79	
令和5年度	事業の目標と取組内容	関係機関と連携し、子育て親子の情報共有を図るとともに、交流の場の提供や子育て家庭の訪問等を行い、育児不安の軽減や孤立化の解消に努める。							
	取組実績	子育て家庭への訪問実績 ・山鹿子育て支援センター…79件（104件） ・鹿北子育て支援センター…6件（8件） ・菊鹿子育て支援センター…16件（20件） ・鹿本子育て支援センター…29件（32件） ・鹿央子育て支援センター…13件（16件） 対象件数合計：180件 訪問合計件数：143件							
	目標達成に向けた今後の課題	・連絡がつかない家庭や、訪問を拒否される家庭に対する情報提供および状況把握の方法の検討。							
評価	B	評価の要点 (成果及び反省)	・訪問率79%と、おおむね達成することができた。 ・地区担当保健師や、利用者支援事業担当者との連携を図りながら見守り家庭への訪問を繰り返し行い、状況把握に努めた。						
令和年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	・関係機関と連携し、子育て親子の情報共有を図るとともに、交流の場の提供や子育て家庭の訪問等を行い、育児不安の軽減や孤立化の解消に努める。							

評価基準：目標値に対する到達率

- A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。
 B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。
 C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。
 D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		地域の身近なところで、子育て世代のための包括的な子育て支援の充実を図るために、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築に努めます。							
事業名称		子育て支援講習・講座の開催							
事業概要		妊娠期から乳幼児期の親の子育て力を高め、保護者が自信をもって子育てができるよう講習・講座を開催し、学びの充実を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	講習・講座開催回数		回	19	19 3	19 5	19 7	19 7	19
令和5年度	事業の目標と取組内容		乳幼児を育児中の保護者が、自信を持って子育てができるよう、子育て家庭のニーズに合った講習・講座を開催する。						
	取組実績		妊娠中の夫婦を対象にした「プレパパ・ママ教室」を年3回、生後2～5か月の第1子を育てる母親対象の「親子の絆づくりプログラム」を年4回（1回につき4回連続）計画し、開催することができた。 離乳食教室については、今年度も開催することができなかった。						
	目標達成に向けた今後の課題		健康増進課等とも協議しながら、離乳食教室の実施方法を検討していく必要がある。						
評価	C	評価の要点 (成果及び反省)	2つの講座に関しては計画通り開催することができ、参加者の交流や学びの機会となった。離乳食教室については再開が難しく、開催方法について協議中である。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		妊娠中から子育て中の保護者が自信をもって子育てができるよう、講習・講座を開催していく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		地域の身近なところで、子育て世代のための包括的な子育て支援の充実を図るために、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築に努めます。							
事業名称		利用者支援事業							
事業概要		妊娠期から子育て期における様々なニーズに対し、情報収集と提供を行い、必要に応じ相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整を行うなど、母子保健と子育て支援の両面から切れ目のない支援を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	周知のための第1子出産家庭訪問率		%		100 83	100 87	100 82	100 94	100
令和5年度	事業の目標と取組内容	子育て世代包括支援センターの周知及び関係機関との連携に努め、認知度を上げる。							
	取組実績	チラシやリーフレットを活用し、第1子出産家庭への訪問による周知、母子手帳交付時の周知を行った。（第1子訪問：79件(対象84件)、母子手帳交付時の情報提供161件） 訪問が難しい家庭に対しては、地区担当保健師との連携により、来所での対応や乳幼児健診において対応した。							
	目標達成に向けた今後の課題	連絡がつかない家庭や転入家庭、訪問が難しい家庭などもあるため、関係機関との連携が不可欠である。							
評価	A	評価の要点 (成果及び反省)	訪問率は94%とほぼ目標値に達成することができた。 訪問できなかった家庭に対しては、健診時や地区担当保健師との連携により情報提供を行うことができています。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	関係機関との連携を図り、妊娠期から子育て期における様々なニーズに対し、訪問等により情報収集と提供を行い、必要に応じ相談・助言等を行う等、総合的相談や支援を実施していく。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		幼児教育・保育の無償化の実施により、子ども達の生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の機会を保障するとともに、子育て世代の経済的な負担軽減を図ります。							
事業名称		幼児教育・保育の無償化							
事業概要		令和元年10月施行の幼児教育・保育の無償化により、3歳児クラスから就学前まで及び、住民税非課税世帯に係る2歳児クラスまでの保育料が無料となり、子育て世代の経済的な負担軽減を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	※成果指標なし								
令和5年度	事業の目標と取組内容		制度が複雑化しており、引き続き広く理解していただけるよう周知を図る必要がある。						
	取組実績		実績のない施設への確認等を実施し、再度の制度周知を行った。						
	目標達成に向けた今後の課題		HPによる制度周知や情報発信を強化し、窓口手続きの簡素化にも取り組む必要がある。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	保護者への説明も丁寧に行うことで保護者の理解は得られていると思われるため。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		引き続き丁寧な窓口対応に努め、情報発信の強化及び手続きの簡素化を図る。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		3. 喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		特定教育・保育施設等を利用する2号認定で多子世帯第3子以降の子どもの副食費について無償化を実施し、多子世帯の負担軽減を図ります。							
事業名称		多子世帯への支援							
事業概要		1号認定（小学3年生から数えて第3子以降）と2号認定（特定教育・保育施設等を利用する第3子以降）の多子に係る副食費を免除します。 また、県と市の独自事業として、18歳以下から数えて第3子以降の2号認定に係る副食費も免除します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	※成果指標なし								
令和5年度	事業の目標と取組内容		山鹿市外に転出している18歳以下の子どもが入所申込書上記載されていない場合、多子該当の適用が漏れる恐れがあることから、制度の周知・理解を求めている。						
	取組実績		パンフレットを用いて保護者への丁寧な説明を実施した。 入所申込書の複数チェックにより適用漏れを防止した。						
	目標達成に向けた今後の課題		入所申込書様式の改善や受付時の確認方法について再検討する。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	多子世帯の負担軽減におおむね寄与することができたと思われるため。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		受付時の確認を丁寧に行い、適用漏れを防止する。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		3. 喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		保護者の多様化する就労形態や育児疲れによる保護者の負担軽減など、多様な保育ニーズに対応するため、通常の教育や保育、延長保育事業、病後児保育事業、一時保育事業、預かり保育などのきめ細かな保育サービスの充実や量・質の確保を図ります。							
事業名称		延長保育事業							
事業概要		保護者の就労、勤務時間等のやむを得ない理由で保育時間の延長が必要な園児に対し、通常の保育時間を超えて保育を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	延長保育利用者数（延べ）		人	11,000	11,000 9,460	11,000 11,344	11,000 5,936	11,000 9,749	11,000
令和5年度	事業の目標と取組内容		保護者の保育ニーズに対応していく。						
	取組実績		感染症流行の減少を機に、利用者が増加した。						
	目標達成に向けた今後の課題		保護者の働き方が多様化する中、ニーズに対応できる体制づくりが重要である。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	保護者のニーズに対応できている					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		保護者のニーズに対応するための体制づくりに努める。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		保護者の多様化する就労形態や育児疲れによる保護者の負担軽減など、多様な保育ニーズに対応するため、通常の教育や保育、延長保育事業、病後児保育事業、一時保育事業、預かり保育などのきめ細かな保育サービスの充実や量・質の確保を図ります。							
事業名称		病後児保育事業							
事業概要		病気や病気回復期にある児童を一時的に預かることにより、保護者の子育てと就労の両立支援を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	利用申請に対する受け入れ率		%	88	90 95	90 95	90 92	90 82	90
令和5年度	事業の目標と取組内容		・新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられたため、これまでの「県のリスクレベルに応じた病後児保育室での受け入れ基準」を廃止し、通常の受け入れを行っていくと共に、コロナ感染児の受け入れ体制を整える。 ・熊本市との連携協定による相互利用及び市内に新たに1施設病後児保育室が開設されることにより受け入れ体制の充実が図れる。相互に連携を取りお断りを低下させていく。						
	取組実績		・新型コロナウイルス感染症罹患児を受け入れするにあたり、病後児保育室の環境整備を行い（HEPAフィルタ付の空気清浄機の使用、機械換気による陰圧隔離室）、インフルエンザ同様に①発症後自宅療養を3日間していること②解熱し咳や鼻水などの症状が軽快していること条件として受け入れを行った。コロナ感染児の受け入れ時は他疾患の利用希望者は市内2施設の病後児保育室を紹介を行った。						
	目標達成に向けた今後の課題		・R5年度新型コロナウイルス感染症での利用は6件。環境整備に加えスタッフの健康管理も万全に整え、安心・安全に受け入れをすることができた。今後も継続して受け入れを行い、市内2施設の病後児保育室の協力を得る必要がある。また、市内2施設で新型コロナウイルス感染症罹患児の受け入れを検討してもらうように働きかける必要がある。 ・山鹿市内に病後児保育室が1施設加わり3施設となり、熊本市との連携協定により利用者の選択肢も増えたと思われるが、お断りとキャンセルの件数が増えている。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	R5年度は、391件の利用希望があり実際に利用した方は257名。 受け入れ率：82％ お断り率：18％ 当日朝キャンセルが42件（前日キャンセル22件）あり。前日にキャンセルの連絡があるとお断りしなくてもよかった場合がある。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		・R5年度 利用予約キャンセル64件のうち当日朝キャンセルが42件を占める。お断りが70件で、キャンセル数が減少すればお断りを減少することができる。保護者に利用するにあたってのマナーを厳守してもらうよう周知徹底していくと共に、利用前日に電話連絡するなど利用有無の再確認をしていく。						

評価基準：目標値に対する到達率

- A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。
B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。
C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。
D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課	子ども課							
基本目標	3. 喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策	_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策	保護者の多様化する就労形態や育児疲れによる保護者の負担軽減など、多様な保育ニーズに対応するため、通常の教育や保育、延長保育事業、病後児保育事業、一時保育事業、預かり保育などのきめ細かな保育サービスの充実や量・質の確保を図ります。							
事業名称	一時預かり事業・一時保育事業							
事業概要	一時預かり事業：幼稚園や認定こども園の教育時間終了後に在園児を預かります。 一時保育事業：保育園や幼稚園などに入園していない乳幼児で、保護者の病気、入院、災害、事故等の理由により保育園等で緊急・一時的に預かる保育です。							
成果指標	指標名	単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
			R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	預かり保育利用者数（延べ）	人	600	600	600	600	600	600
				572	536	115	202	
	一時保育事業利用者数（延べ）	人	500	500	500	500	500	500
577				641	393	422		
令和5年度	事業の目標と取組内容	様々な保育ニーズを丁寧に聞き取り、よりよい選択肢を提供できるよう窓口対応の更なるスキルアップ及び、制度の周知を行う。						
	取組実績	昨年度との比較すると増加しているが、コロナ禍以前と比較すると利用者は減少している。						
	目標達成に向けた今後の課題	制度の周知及び、ニーズに対応する人材（保育士等）の確保・維持が重要である。						
評価	C	評価の要点 (成果及び反省)	ニーズにはある程度対応できている。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	各種窓口やHP等による制度周知の充実						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課	子ども課							
基本目標	2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策	_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策	仕事と育児の両立等、安心と温もりある子育て支援として、ファミリー・サポート・センター事業やみんなの居場所づくり事業に取り組みます。また、事業内容の周知や会員登録の推進を図るとともに、利用しやすいサービスの構築を図ります。							
事業名称	子育て援助活動支援事業							
事業概要	児童の預かり等の支援を受けることを希望する者と援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行います。							
成果指標	指標名	単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
			R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	依頼会員数	人	245	240	250	260	270	280
				215	232	232	203	
令和5年度	事業の目標と取組内容	利用者の負担軽減のため、利用料金の減免につながるよう要綱を改正したので、制度の周知を図る。						
	取組実績	周知活動に力を入れ、チラシの配布先に放課後児童クラブ（22クラブ）・学校・園を追加訪問、説明を行った。						
	目標達成に向けた今後の課題	利用料金減免の情報が行き届くように、周知を継続していき、協力会員（105人）が不足しているため、協力会員の増加を図る必要がある。						
評価	B	評価の要点 (成果及び反省)	利用料金の減免につながる要綱改正ができ、周知を行ったが、利用者の増加には繋がらなかった。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	周知活動については、継続していき、個別に説明を行いながら、利用者の増加を目指す。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を得ることができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を得ることができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		山鹿市放課後児童クラブガイドラインに基づき、受け入れ体制の充実と質の向上を図ります。また、障がい児受け入れや、支援を要する児童へよりよい対応を行うため、職員の専門性の向上を目的とした研修を実施します。							
事業名称		放課後児童健全育成事業							
事業概要		就労等により保護者が昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、放課後等に適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な育成を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	放課後児童支援員認定資格新規取得者数	人		5	5	5	5	5	
				8	11	13	4		
	市主催研修会受講者数（延べ）	人		250	250	250	250	250	
				117	76	123	157		
県資質向上研修受講者数（延べ）	人		40	40	40	40	40		
			21	43	10	4			
令和5年度	事業の目標と取組内容		認定資格新規取得者の促進に努め、有資格者の支援員の増加を図る。						
	取組実績		2年以上の継続支援員の雇用により、認定新規取得者の増加に繋がらなかった。						
	目標達成に向けた今後の課題		今後は、子どもの数は減少傾向にあるものの、放課後児童クラブ利用登録児童数は増加傾向にあり、本市が基準としている40人クラブを超える場合のクラブ数の増加等が懸念され、またこのことに関連し、支援員の増員が急務であることから、支援員の増員・確保を図る。						
評価	B	評価の要点 (成果及び反省)	支援員の増員に対する新規雇用・確保ができなかった。人材確保が必要と考える。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		支援員として人材確保に努め、認定資格新規取得者の促進を図り、目標達成を目指す。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		ショートステイ・トワイライトステイ事業は、子育て支援の一環として緊急時の対応も含めて事業を継続していくとともに、制度周知を図ります。							
事業名称		短期入所生活援助（ショートステイ）事業							
事業概要		保護者の疾病や育児疲れ等の理由で児童の養育が困難になった場合に一時的に児童養護施設等適切に保護することができる施設で児童の保護等を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	※成果指標なし								
令和5年度	事業の目標と取組内容		施設調整を行い、受け入れに努める。 保護者の送迎が困難な場合は、施設による送迎を実施する。（送迎にかかる費用は市が負担し、利用者の負担軽減を図る。）						
	取組実績		現在、山鹿市内外に6施設と委託契約。うち利用は1施設 利用人数は、延べ82件。うち送迎利用は、39件						
	目標達成に向けた今後の課題		利用者が相談機関と関わっているケースが多く、相談機関と施設との連携の強化が必要である。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	施設調整を行ったが、受け入れられなかったケースがあった。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		施設調整を継続して行い、全ケースの受け入れを図る。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		ショートステイ・トワイライトステイ事業は、子育て支援の一環として緊急時の対応も含めて事業を継続していくとともに、制度周知を図ります。							
事業名称		夜間養護等（トワイライトステイ）事業							
事業概要		保護者が仕事等により平日の夜間又は土日等に不在となり、家庭において児童を養育することが困難となった場合、生活指導、食事の提供を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	※成果指標なし								
令和5年度	事業の目標と取組内容		施設調整を行い、受け入れに努める。 保護者の送迎が困難な場合は、施設による送迎を実施する。（送迎にかかる費用は市が負担し、利用者の負担軽減を図る。）						
	取組実績		現在、山鹿市内外に6施設と委託契約。うち利用は1施設 利用人数は、延べ20件。うち送迎利用は、4件						
	目標達成に向けた今後の課題		利用者が相談機関と関わっているケースが多く、相談機関と施設との連携の強化が必要である。						
評価	A		評価の要点 (成果及び反省)	相談機関と連携し、利用者全て受け入れできた。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		施設調整を行いながら、継続して利用者全ての受け入れを図る。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_3. 子どもの夢を育む遊びや学びの環境の整備							
具体的施策		次代の親となる小学生・中学生・高校生を対象として、赤ちゃんふれあい交流事業を推進し、赤ちゃんや子育て中の親との交流を通して、結婚や出産、育児、命の尊さ等について考える機会をつくっていきます。							
事業名称		赤ちゃんふれあい交流事業							
事業概要		中高生が、乳幼児とのふれあい体験を通して、生命の大切さや子どもを産み育てることの素晴らしさについて考える機会をつくります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	実施高校数		校	5	5 0	5 0	5 0	5 3	5
令和5年度	事業の目標と取組内容		赤ちゃんや子育てに対する理解を深めるとともに、命の大切さや親子の絆の大切さに気づき、自分自身を振り返る機会として、山鹿市内のすべての高校での実施を目指す。 コロナ禍における実施方法について検討する。						
	取組実績		各高校に出向き、交流会の再開に向けて検討を行った。今年度は、山鹿市内の高校5校中、3校との交流会を実施することができた。2校は、学校側とのスケジュール調整が難しかった。						
	目標達成に向けた今後の課題		次年度の実施に向けて年度末に各高校に出向き、検討を行っていく。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから開催が可能となり、3校で交流会を実施することができた。残り2校も交流会の開催に向けて、前向きに検討していただくことができた。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		赤ちゃんや子育てに対する理解を深めるとともに、命の大切さや親子の絆の大切さに気づき、自分自身を振り返る機会として、実施方法について検討しながら、山鹿市内のすべての高校での実施を目指す。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_2. 親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		保護者の子育てに係る経済的負担の軽減に寄与するため、子ども医療費の18歳までの無料化等の各種経済的支援を継続的に推進します。							
事業名称		子ども医療費助成制度の充実							
事業概要		18歳以下の子どもに係る県内医療機関等での外来分の現物給付と入院並びに県外医療機関等の外来受診の払い戻しを実施します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	※成果指標なし								
令和5年度	事業の目標と取組内容	子どもの健康保持及び子育て世帯の経済的負担軽減を図るため、18歳以下の子どもに係る医療費を助成する。							
	取組実績								
	目標達成に向けた今後の課題								
評価	A	評価の要点 (成果及び反省)							
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容								

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_5. 支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されないことがないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖しないよう環境整備と教育の機会均等を図り、子どもの貧困対策を総合的に推進します。							
事業名称		子どもの貧困対策							
事業概要		環境整備のために経済的安定への支援及び教育支援を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	子どもの貧困対策事業		箇所	1	1 0	1 0	1 0	1 0	1
令和5年度	事業の目標と取組内容		地域の学習教室からの要望に応じた人的支援を行う。						
	取組実績		地域の学習教室からの相談・要望はなく、人的支援は行わなかった。						
	目標達成に向けた今後の課題		地域の学習教室に関する情報が少なく、情報収集に努める必要がある。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	地域の学習教室からの相談・要望がなく人的支援の実施には至らなかったが、今後も情報収集及び要望の把握に努めていきたい。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		地域の学習教室からの要望に応じた人的支援を行う。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_5. 支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		虐待や支援を必要とする子ども、DV被害の母親等への対応として、虐待・防止ネットワーク等の体制の充実を図ります。また、人権教育や講座等を通して、子どもの人権に対する意識を高める取組を推進します。							
事業名称		虐待・暴力防止ネットワーク等の構築強化							
事業概要		関係各課、機関との連携を強化し、要保護児童対策地域協議会を開催します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	要保護児童対策地域協議会		回	3	3	3	3	3	3
					3	3	3	3	
令和5年度	事業の目標と取組内容		要保護児童対策地域協議会を年3回開催し、関係機関からの情報提供とケース支援への関係機関の連携調整を行う。						
	取組実績		要保護児童対策地域協議会を年3回開催（うち1回は書面開催）し、関係機関との情報共有を図ることが出来た。						
	目標達成に向けた今後の課題		課題等は特になし。						
評価	A		評価の要点 (成果及び反省)	要保護児童対策地域協議会を年3回開催し、関係機関との情報共有を図ることで、児童虐待の早期発見や再発防止に努めた。 また、今年度から児童家庭支援センターにもアドバイザーとして参加してもらい、課題解決に向けて取り組むことができた。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		要保護児童対策地域協議会を年3回開催し、関係機関からの情報提供とケース支援への関係機関の連携調整を行う。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		建設課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_6. 子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		子どもや保護者にやさしい道路整備や安心・安全で楽しく遊べる公園の整備を進めます。							
事業名称		安全な歩道整備							
事業概要		交通量が多い区間及び、老朽化が進んだ既存歩道の早急な改善が求められている。特に、統廃合により学校の位置が変更となり通学路に変更が生じた場合など、新たに歩道整備の必要が生じた箇所については、早急な整備が求められる。そこで道路改良工事と併せ、歩道整備及び既存歩道の補修を計画的に実施します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	歩道の整備（改修含む）延長		m	791.1	L=300m L=454m	L=100m L=360m	L=100m L=127m	L=80m L=80m	0
令和5年度	事業の目標と取組内容		用地買収を伴う歩道については計画的に整備を行い、また、既存歩道等の早急な改善が必要な箇所について速やかに整備を行う。						
	取組実績		工事名称：長坂古閑線道路改良工事 工事期間：令和5年10月16日～令和6年3月22日 詳細箇所：ゆめマート東山鹿店より南側（大道小方面）向かう市道。未改良部分であった80mの歩道を整備した。						
	目標達成に向けた今後の課題								
評価	A		評価の要点 (成果及び反省)						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容								

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		都市整備課							
基本目標		2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_6. 子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		子どもや保護者にやさしい道路整備や安心・安全で楽しく遊べる公園の整備を進めます。							
事業名称		安心安全な公園施設の整備							
事業概要		本市が管理する都市公園において、「都市公園施設長寿命化計画」及び「第3次社会資本整備計画」に基づき、施設の更新工事等を計画的に実施することにより、公園利用の安全性及び快適性を向上させるとともにランニングコストの縮減や平準化を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	都市公園施設更新箇所数		箇所	2	1	1	3	2	2
					1	1	3	1	
令和5年度	事業の目標と取組内容		更新を予定している公園について、その利用状況及び周辺住民の世代構成等を把握し、当該公園に求められる適正な施設の更新整備を進めることで、子どもたちをはじめとした利用者の安全で楽しい憩いの場を提供する。						
	取組実績		日輪寺公園の老朽化した照明施設及び休憩施設（テーブル・ベンチ）の更新工事を行った。また、滑り台の塗装及び補修（頭部挟みこみ防止）を行った。利用者が安心して安全に利用できる憩いの場として、公園機能の向上を図ることができた。						
	目標達成に向けた今後の課題		利用者の増加により、利用形態の多様化も見られるため、全ての利用者が安全に気持ちよく利用できるような利用上のルールの構築とその周知が必要である。						
評価	A		評価の要点 (成果及び反省)	計画していた歴史公園の整備については、担当課で博物館の建設に関する検討が行われているため、5年度での整備は保留とした。 公園施設整備のほか、樹木の剪定と伐採により、公園全体としての景観を向上させることができた。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		更新を予定している公園について、その利用状況及び周辺住民の世代構成等を把握し、当該公園に求められる適正な施設の更新整備を進めることで、子どもたちをはじめとした利用者の安全で楽しい憩いの場を提供する。						

評価基準：目標値に対する到達率

- A：100%以上であった。又は同等の効果を得ることができた。
- B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を得ることができた。
- C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。
- D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_3. 子どもの夢を育む遊びや学びの環境の整備							
具体的施策		次代の親となる小学生・中学生・高校生を対象として、赤ちゃんふれあい交流事業を推進し、赤ちゃんや子育て中の親との交流を通して、結婚や出産、育児、命の尊さ等について考える機会をつくっていきます。							
事業名称		保育体験活動							
事業概要		実際の保育を体験することで、幼児の発達と生活の特徴を理解し、子供が育つ環境としての家族の役割について学ぶ機会をつくります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	中学生の職場体験や家庭科の授業での保育体験の実施率（5校）		%	100	100 50	100 0	100 0	100 0	100
令和5年度	事業の目標と取組内容		令和4年度も体験実習については厳しい状況が予想される。職場体験については、地元の高校と連携してそれに代わるものを計画していく。保育体験については新型コロナの感染拡大の状況によっては計画ができない。						
	取組実績		令和5年度は職場体験学習および保育実習ともに新型コロナウイルスの状況から実施できなかった。						
	目標達成に向けた今後の課題		職場体験の代替として、地元の事業所訪問や実業系高校での体験学習に取り組む学校もあった。コロナの終息とともに、保育に関わる事業所への訪問も検討していく。						
評価	D		評価の要点 (成果及び反省)	新型コロナ感染拡大に配慮し、職場体験学習および保育実習等の体験学習はできなかった。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		各学校において、コロナ禍前の教育活動が展開されると考える。生徒のキャリア教育の視点から工夫した教育活動が展開できるよう学校へ提案していく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課	学校教育課							
基本目標	2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策	_5. 支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実							
具体的施策	虐待や支援を必要とする子ども、DV被害の母親等への対応として、虐待・防止ネットワーク等の体制の充実を図ります。また、人権教育や講座等を通して、子どもの人権に対する意識を高める取組を推進します。							
事業名称	「児童の権利に関する条約」の普及							
事業概要	校内研修において人権教育を実施し、職員の意識を高めると共に、保護者に対する啓発資料等の充実を図ります。							
成果指標	指標名	単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
			R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	保護者向け学校だよりPTA行事を利用した研修を実施していく。PTA研修と学校だよりでの実施率	%	100	100 53	100 100	100 40	100 40	100
令和5年度	事業の目標と取組内容	職員研修ばかりではなく、PTAとも連携し、情報を整理し、学校だよりやPTA通信等で家庭や地域に情報を正しく発信していく。また、安心安全メールにての情報発信も行う。						
	取組実績	職員研修は各学校の校内研修や会議等で取り扱うことができている。PTAとの連携において、参集型の研修ができない学校が多かったので、学校だよりやPTA通信等に掲載した学校もあった。						
	目標達成に向けた今後の課題	校長会時に人権教育研修を取り入れるとともに、教頭研修や初任者研修等でも取り扱った。人権主任を中心とした学校相対で取り組む意識づけを今後も継続させる。						
評価	C	評価の要点 (成果及び反省)	各会議において、人権に関する研修は実施できているが、保護者への啓発に課題がある。学校総体で取り組む意識づけをお願いしていく。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	職員の意識向上とともに、保護者への発信についても継続的にお願いをしていく。 保護者や地域への発信については、人権啓発課とも連携を図っていく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_5. 支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		発達障がいを含む特別な教育的支援を必要としている子どもの健全な成長を支援するため、合理的な配慮に基づいた学習環境づくりに取組むとともに、多様なニーズに対応するための相談体制の充実を図ります。							
事業名称		通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子どもへの教育補助事業							
事業概要		LD、ADHD、高機能自閉症等の障がいをもち通常学級に在籍する子どもの支援を行うための補助職員を配置します。（子ども輝きプラン）							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	資質向上のためのサポートティーチャーの研修の受講率（17名×3回）		%	100	100	100	100	100	100
					100	70	70	100	
令和5年度	事業の目標と取組内容	年に3回の研修を予定しており、特別支援教育の視点にたった研修を計画している。							
	取組実績	年3回の研修を実施した。専門的な立場から、合理的配慮協力員の後藤先生の講話やSSWからの情報提供等を実施した。							
	目標達成に向けた今後の課題	特別支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、引き続き補助職員の配置を行う。職員のニーズに合った研修を企画し、補助職員の質の向上に努める。							
評価	B	評価の要点 (成果及び反省)	特性のある児童生徒との関わり方について研修を行うことができた。職員の意識も向上している。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	年に3回の研修を予定し、すべてのサポートティーチャーが参加できるよう働きかける。特別支援教育の視点にたち、職員のニーズに合った研修を計画する。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_6. 子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		下校時間帯や夜間の防犯パトロール、講演会や街頭啓発及びキャンペーンに努め、青少年が健全に育ち非行がない明るい社会を築くとともに、防犯意識の向上を図ります。							
事業名称		信頼される学校づくりに向けた安全管理に関する取組							
事業概要		職員やP T Aによる校内外の巡回を実施します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	児童生徒の登下校の見守り	%	100	100	100	100	100	100	
				100	100	100	100		
令和5年度	事業の目標と取組内容	本年度も危険箇所、改善箇所を学校より提出していただく。 また、通学路に関しての要望、改善については随時立ち合いなどを行い、道路管理者や警察署等に、粘り強く働きかけを実施していく。							
	取組実績	児童生徒の登下校の見守りは、どの地域においても地域と連携しながら実施できしており、見守りの中で気づかれた危険箇所や改善箇所を提出いただき、点検活動を実施した。							
	目標達成に向けた今後の課題	保護者や地域の方々の協力をいただきながら、引き続き登下校の見守りと通学路の点検を行っていく。 道路管理者や警察署の協力が必要な所は、働きかけをしていく。							
評価	A	評価の要点 (成果及び反省)	学校や地域の協力を得て、通学路の見守りや危険箇所の洗い出しがすべての学校で実施できた。今後も継続していきたい。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	市内小学校の通学路すべてを対象として、危険箇所、改善箇所を学校より提出していただく。実施日は夏休み期間を予定している。 通学路に関しての要望、改善については随時立ち合いなどを行い、道路管理者や警察署等に粘り強く働きかけを実施するとともに、解決の代替案も示していく。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_6. 子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		青少年の健全な育成を図るため、学校、地域、家庭が一体となったあいさつ運動や「学校へ行こう会」の取組を行います。							
事業名称		学校施設の開放							
事業概要		毎月15日の「学校へ行こう会」で地域の人たちや保護者を招く開かれた学校をつくります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	年間を通じて、すべての小中学校を対象にした学校へ行こう会の実施回数		回	10	5	10	10	10	10
					5	0	9	9	
令和5年度	事業の目標と取組内容		新型コロナウイルス感染対策を行いながら、授業参観を実施。保護者及び地域に広く周知するために、やまがメイト等にて啓発を実施する。						
	取組実績		6月から実施し、コロナ前ほどの人数ではないが、参加者が徐々に増えている。						
	目標達成に向けた今後の課題		毎月15日前後を「学校へ行こう会」としているため、継続した周知が必要。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	定期的な啓発（やまがメイト）ができたが、参加者としては少ない。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		継続した啓発活動を実施。（やまがメイト）各学校において、学校だより等に掲載を依頼する。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		2. 地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_6. 子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		青少年の健全な育成を図るため、学校、地域、家庭が一体となったあいさつ運動や「学校へ行こう会」の取組を行います。							
事業名称		あいさつ運動							
事業概要		朝のあいさつ運動を実施します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	年間を通じて、すべての小中学校を対象にした市長あいさつ運動の実施（13校）		%	100	100	100	100	100	100
					100	0	100	100	
令和5年度	事業の目標と取組内容	新型コロナウイルス感染対策を十分に行い、13校全ての学校で実施できるように計画している。							
	取組実績	感染対策を行いながら、13校すべての学校で実施することができた。教育部職員や新人職員も参加した。また、ころう君の派遣やハンドボールオムロン選手にも参加していただいた。							
	目標達成に向けた今後の課題	13校すべてを回るために、早めの計画や派遣依頼等を実施していく。							
評価	A	評価の要点 (成果及び反省)	学校の協力で計画的に実施することができた。 市長、教育長、市職員の他に、ころう君、オムロンピンディーズにも協力いただき、児童生徒の明るい笑顔も見られた。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	あいさつを通して、学校職員や地域のボランティアの方々との交流も深めていく。 早めに日程調整し、ゆとりをもった計画を立てる。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		生涯学習・スポーツ課							
基本目標		3. 喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_3. 子どもの夢を育む遊びや学びの環境の整備							
具体的施策		「親の学び」プログラムにより、講師（プログラムトレーナー）を派遣します。参加体験型の学習スタイルで、子育てのポイントを身近な話題から楽しく学んでもらう講座など家庭教育の支援を行います。							
事業名称		「親の学び」プログラムトレーナー派遣事業							
事業概要		幼・保・小・中を対象に「親の学び」講座へ講師を派遣し、家庭教育に関する研修を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	山鹿市内の幼稚園および保育園、小中学校における講座の実施率		%	86	100 27	100 17	100 51	100 49	100
令和5年度	事業の目標と取組内容		コロナ禍の中でできる取り組みとして、デジタルコンテンツを活用した講座の啓発活動により、全ての幼稚園、保育園、小中学校での実施を目指す。推進方法についても見直し、定期的な声掛けにより、実施を促す。						
	取組実績		講座実施及び実施報告について各幼・保・小・中へ四半期ごとに周知を行い、未実施の学校については声かけをおこなった。また、進行役養成講座を実施し、進行役の充実を図った。						
	目標達成に向けた今後の課題		定期的な周知を継続し、就学前施設での実施率の向上を図るとともに、トレーナーの充実を図る。						
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	目標値には届かなかったが、定期的な周知と声かけを行ったことで、小中学校においての実施率100%という成果があった。					
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		定期的な声かけ、養成講座の開催、家庭教育に有益なチラシ・DVD等の積極的な配布や啓発を行い、実施率の向上とトレーナーの充実を図る。小中学校：100%、就学前施設：50%をめざす。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		生涯学習・スポーツ課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_6. 子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		下校時間帯や夜間の防犯パトロール、講演会や街頭啓発及びキャンペーンに努め、青少年が健全に育ち非行がない明るい社会を築くとともに、防犯意識の向上を図ります。							
事業名称		夜間巡回活動（地域の見守り活動）							
事業概要		商業施設及び少年のたまり場への巡回による非行防止や、下校時間の巡回による見守り等の活動を実施する。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	巡回活動の実施		回	10	10	10	10	10	10
					10	10	10	10	
令和5年度	事業の目標と取組内容	前年同様、個別巡回により、見守り活動を実施する。また、推進員の研修会を開催し、青少年の非行状況、態様を啓発していく。							
	取組実績	本年度も前年同様、推進員個別に各々の地域で夜間巡回や登下校の際の見守りを実施し、年末には関係団体と共に夜間巡回を実施した。また、青少年の非行の様態が変化してきたことから、警察より非行の現状についての講演会を実施し、その把握を行った。							
	目標達成に向けた今後の課題	青少年非行の態様の変化に伴い、従前の巡回による見守り活動に加え、警察や関係機関との連携に努める必要がある。							
評価	A	評価の要点 (成果及び反省)	目標である個別巡回や見守り活動、研修会実施により非行の傾向把握ができた。ただ、青少年の非行が多岐にわたることから、関係機関との連携強化に取り組む必要がある。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容	引き続き個別巡回により見守り活動を実施する。また、青少年を取り巻く環境の変化に伴い、非行状況も多様化していることから研修会の開催を通して態様の把握に努め、関係機関との連携強化に取り組む。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		山鹿市民医療センター								
基本目標		3. 喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します								
主要施策		_2. 親子の健康の確保及び増進								
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。								
事業名称		小児医療・時間外小児医療の充実								
事業概要		医師研修及び適正受診への住民啓発を行います。 また、小児科常勤医の確保に努め、安心できる医療提供を行います。								
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）					
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	
	市民医療センター小児科従事者数		人	0	1 0	1 0	2 0	2 0	2	
令和5年度	事業の目標と取組内容		熊大医局との連携を密にし、引き続き小児科常勤医の確保に努める。 医師修学資金貸与者への面談を再開し、こまめな意思確認を行う。							
	取組実績		医師紹介業者への照会及び問い合わせや、熊大医局への訪問による連携強化により、小児科常勤医の確保に努めたが、常勤医の獲得には至っていない。 医師修学資金貸与者については、引き続き面談しこまめな意思確認を行っている。							
	目標達成に向けた今後の課題									
評価	B		評価の要点 (成果及び反省)	常勤医の獲得はできなかったが、非常勤医師により前年度と同様の診療体制を維持することができた。 令和6年度に医師就学資金貸与者である常勤小児科医1名の採用が見込まれている。						
令和6年度	前年度の課題を踏まえた事業の目標と取組内容		引き続き熊大医局への訪問による情報共有と連携強化を主とし、小児科常勤医複数体制を目指す。							

評価基準：目標値に対する到達率

- A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。
- B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。
- C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。
- D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。